

公益社団法人日本臨床細胞学会

2020年度第3回理事会 議事録

日時：2020年11月21日（土）7：30～9：30

場所：パシフィコ横浜ノース 3階 G303

WEB同時開催

役員総数：42名（理事 39名、監事 3名）

出席総数：理事 38名

（理事）青木 大輔，石井 保吉，板持 広明，伊藤 仁，伊藤 潔，井上 健，伊豫田 明，植田 政嗣，榎本 隆之，大平 達夫，小笠原 利忠，岡本 愛光，小田 瑞恵，加藤 久盛，川本 雅司，小松 京子，齋藤 豪，佐藤 之俊，生水 真紀夫，進 伸幸，竹島 信宏，田畑 務，都築 豊徳，中村 直哉，羽場 礼次，廣岡 保明，藤井 多久磨，前田 一郎，松浦 祐介，三上 芳喜，宮城 悦子，森井 英一，森谷 卓也，矢納 研二，横山 正俊，横山 良仁，若狭 朋子，渡利 英道

（監事）長村 義之，佐々木 寛，土屋 眞一

（細胞診専門医教育研修指導要綱改訂ワーキンググループグループ長）安田 政実

（総務委員会委員）山下 博

（総務委員会幹事）和田 直樹

（制度審議委員会幹事）佐々木 陽介

会場に加え、Web会議システムにより、出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることが確認されて、理事会が開催され、議案の審議に入った。

本理事会の開催にあたり、佐藤之俊 理事長、川本雅司 副理事長〔事務局運営・編集・渉外〕、齋藤豪 副理事長〔総括・財務・専門医・臨床研究〕、森谷卓也 副理事長〔学術・国際交流・IAC〕の挨拶が行われた。

Web会議システムにより、出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることが確認されて、議案の審議に入った。

本議事録において定款第23条第3項で定める理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については*印を付す

理事長報告*（佐藤之俊理事長）

副理事長報告*

前回議事録について

2020年度第2回理事会議事録の確認が行われた。

庶務報告 (2020年10月28日現在)

全会員数：12,718名

(正会員 5,670名, 準会員 6,829名, 名誉会員 38名, 功労会員 174名, 図書会員 16件)

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,061名(実数)

(認定：細胞診専門医 3,730名、細胞診専門歯科医 102名)

FIAC：111名 MIAC：36名

細胞検査士数：7,809名(実数)(認定10,384名)

CT(IAC)：4,232名

物故会員 (2020年9月18日～2020年11月2日)

正会員 三森 寛幸(みもり ひろゆき)先生

黙祷

学会年会費滞納者一覧/自宅住所・勤務先住所共に不明な会員一覧の報告

学会年会費滞納者一覧の報告後、対象者に年会費滞納者である旨の声掛けを行って、滞納を解消することが奨励された。また、自宅住所・勤務先住所共に不明な会員一覧が報告され、御存知の方がおられたら事務局までお教え下さいとの周知がなされた。

第59回秋期大会(パシフィコ横浜ノース+WEB開催、2020年11月21日(土)～22日(日)+2020年12月11日(金)～27日(日))

伊藤仁大会長より現段階で既に参加登録5000名を超えており盛会であることが報告された。

大会準備状況

第62回春期大会(生水真紀夫、幕張メッセ、2021年6月4日(金)～6日(日))、第60回秋期大会(廣岡保明、米子コンベンションセンター BIG SHIP、2021年11月20日(土)～21日(日))、第63回春期大会(岡本愛光、グランドプリンスホテル高輪、2022年6月10日(金)～12日(日))、第61回秋期大会(伊藤潔、仙台サンプラザホテル・ホールメルパルク仙台およびホテル仙台ガーデンパレス、2022年11月5日(土)～6日(日))、第64回春期大会(藤井多久磨、国立京都国際会館、2023年6月2日(金)～4日(日))の準備状況に関する報告が行われた。

総務委員会(委員長 森井 英一)

[報告事項]

1. 他団体からの周知依頼に対応した

2. 緊急事態宣言中にテレワークを行うことで、残業の減少、自主的な作業習慣の定着が可能となった。
3. 緊急連絡方法の改善により、事案の発生後 30 分程度での対応が可能となった。
4. Web 会議として、BlueJeans が 10 月から常時、他の会議と重ならない限り使用できることとなった。
5. オンライン化などに伴う種々のトラブルに事務局が対応している最中である。(細胞検査士教育セミナーなど)

[審議事項]

1. 特になし

情報処理委員会 (委員長 伊藤 仁)

[報告事項]

1. イエローページ掲載、情報開示の要請、その他のホームページへの掲載願いの対応を行った。
2. 新マイページ作業進捗について
 - 1) コロナ対応に備えた一部設計変更により全面公開は年内になる見込みである。
 - 2) 新マイページの機能テストを兼ねて第 45 回細胞診断学セミナー、第 79 回・第 80 回検査士教育セミナー、第 53 回細胞検査士試験出願の受付を実施した。結果は良好であった。
 - 3) 現マイページは 12 月中旬まで利用可とし、その後データ整理・削除を行い年末に閉鎖する予定である。

[審議事項]

1. 特になし。

学術委員会 (委員長 前田 一郎)

[報告事項]

なし

[審議事項]

1. 学術委員会として 2020 年度の各賞・班研究課題は以下のとおり推薦する。⇒ 以下を承認。(※班研究課題は 2 題の応募があり、各共同研究者、同一施設内関係者は選考を辞退していただき学術委員 13 名で評価した。)

(ア)学会賞

青木大輔 先生 (慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室 教授)

(イ)技師賞学術部門

梅澤 敬 先生 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター病院病理部)

(ウ)技師賞功労部門

三宅真司 先生 (東京医科大学病院 病理診断科 技師長)

(エ)班研究課題※

小穴良保 先生 (北里大学北里研究所病院 病理診断科)

計理委員会 (委員長 岡本 愛光)

[報告事項]

1. 2020年9月2日(水)WEB会議で、佐藤之俊理事長、土屋眞一監事、長村義之監事、加藤久盛検査士委員会委員長、会計事務所 中田ちず子氏、糸永圭一氏のもと、秋の監査会を開催した。6月に開催された第61回日本臨床細胞学会総会(春期大会)、第53回細胞検査士試験の収支および収支予測等について確認が行われた。
※収支予測：収入予測 149,253,800円、支出予測 156,408,454円、事業差分子予測 2,138,778円、特別費用準備資金予測 9,551,117円 ⇒ 本差分子予測 4,535,241円(黒字)
2. 2020年11月26日(木)10:00~16:00 内閣府の立ち入り検査が行われる予定である。当日は、佐藤之俊理事長、斎藤豪副理事長、佐々木寛監事、岡本愛光計理委員会委員長、山下博総務委員会幹事、糸永圭一氏が出席を予定している。

[審議事項]

特になし

編集委員会 (委員長 矢納 研二)

[報告事項]

1. なし

[審議事項]

1. 日本臨床細胞学会誌投稿規定改訂 (Letter to the Editor 導入、二重投稿禁止に関する記載、著者全員に利益相反自己申告書の署名欄に自署を求める記載など)に関する提案が新旧対比表を用いて行われた ⇒ 承認
2. 日本臨床細胞学会誌編集・査読活動を、評議員選出に於ける業績として単位化する提案 ⇒ この方向性を承認のうえ継続審議：具体案を編集委員会で検討する
3. 年度内の査読活動を、最優秀査読賞として複数名表彰する提案 ⇒ この方向性を承認のうえ継続審議：制度審議委員会など関連委員会が具体的な施行細則を検討する

細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣）

[報告事項]

1. 令和2年度細胞診専門医資格認定試験

2021年2月5日・6日にAP浜松町で行う。今年度の試験については、筆記試験および細胞診断試験（プリント問題）は従来通り、検鏡試験はバーチャルスライドで行う。総合科133名、歯科4名の応募者から厳正な抽選にて総合科受験希望者100名および歯科受験希望者4名に願書を発送し、10月17日に受験資格審査会を行った。総合科99名（1名願書提出せず）、歯科4名について審査した結果、総合科95名、歯科4名を受験資格ありと判定した。

2. 令和2年度細胞診専門医資格更新

今年度の対象者ナンバーは、0684-0773、1102-1170、1387-1446、1647-1710、2029-2159、2477-2577、2850-2961、3223-3325、8041-8045である。今年度は5年毎更新の新単位制度による初めての資格更新となる。資格更新申請用フォーマットはすでに作成した。

3. eラーニングについて

eラーニングシステムを構築し2019年2月より運用を開始した。現在までに共通講習22コンテンツ（含 指導医講習4コンテンツ）、領域講習33コンテンツ、検査士講習5コンテンツをアップした。

4. サブスペシャルティ領域専門医について

日本専門医機構がサブスペ専門医の認定作業を開始した。サブスペ専門医の基本領域は1分野にせよとの指示がある。日本臨床細胞学会における細胞診専門医の構成は病理科60%、産婦人科30%、その他10%であり、病理学会が基本領域となる。機構の指示により、病理学会内にサブスペ領域連絡協議会が立ち上がり、本学会が参加する。なお、日産婦学会内の同協議会には本学会はオブザーバーとして参加する。

[審議事項]

1. 細胞診専門医資格更新手続きについて

定款細則では、資格更新手続き期限は12月10日であるが、第59回秋期大会のWEB開催が12月11日-27日であるため、今年度は明年1月10日まで延期していただきたい。

⇒ 承認

2. 令和2年度細胞診専門医資格認定試験で専門の感染予防業者（INTER GROUP/現状

の見積もり提示は129万1730円→値引きを試みる）を雇う ⇒ 承認

施設認定制度委員会（委員長 廣岡 保明）

[報告事項]

1. 2020年度新規施設認定について

申請のあった17施設の審査の結果、11施設が認定可となり、6施設は条件付き認定可となった。

2. 2020年度新規教育研修施設認定について
申請のあった3施設の審査の結果、全施設（長岡中央総合病院、静岡済生会総合病院、医療法人徳州会札幌徳州会病院）認定可となった。
3. 2019年度認定施設年報提出状況（2020年9月17日現在）
全852認定施設中 提出済：836施設（98.1%）、未提出：16施設（1.9%）
4. 2019年度教育研修施設年報提出状況（2020年9月17日現在）
全327認定施設中 提出済：322施設（98.5%）、未提出：5施設（1.5%）
5. 2020年度認定施設更新状況（2020年9月17日現在）
全65施設中、更新可：62施設（95.4%）、辞退：3施設（4.6%）
6. 2020年度教育研修施設更新
2020年は更新無し。
7. 内部精度管理（実地調査）について
2019年度内部精度管理では、国立国際医療研究センター病院が「違反」であり、是正勧告にしたがって是正されたかどうかを調査予定
2020年度内部精度管理については、内部精度管理WG（浦野誠WG長）のもとで4施設を対象に、新型コロナウイルス感染の影響を考慮し、書類による審査を行う予定。
8. 外部精度管理（コントロールサーベイ）について
第8回コントロールサーベイの問題を全認定施設に発送済み
9. 以下の検討事項を現在施設認定制度委員会で審議中である。審議を終えたら理事会に諮る。
 - ・施設認定に関する施行細則・附則と精度管理ガイドラインの整理について
施設認定制度委員会内での整理が終了し、専門医委員会に答申中
今後の予定：専門医委員会、青木 理事からの意見聴取後、可能であれば新型コロナウイルス感染症対策、ゲノム医療関連もカバーする内容にして理事会に諮問
 - ・施設認定に関する申請料について

〔審議事項〕

なし

細胞検査士委員会（委員長 加藤 久盛）

〔報告事項〕

1. 第53回細胞検査士資格認定試験に関する収支予定報告
新型コロナウイルス感染症の影響で8,665,900円の赤字
2. 第53回細胞検査士資格認定試験一次試験 結果

試験日：2020年10月31日（土）

試験会場：CIVI 研修センター新大阪東 及び 新大阪丸ビル別館

受験者申し込み数：521人

当日受験者数：517人（欠席4人）

合格者数：318名

二次試験予定

試験日：2020年12月5日（土）6日（日）

試験会場：虎の門ヒルズフォーラム

二次試験受験者予定：435名（一次免除117名含む）

3. 2019年度第3回理事会（2019年11月16日開催）にて、下記2施設が認定されました。

- ・九州保健福祉大学がん細胞研究所細胞検査士養成課程（養成機関）
- ・京都橘大学健康科学部臨床検査学科細胞検査士コース（4年制大学養成課程）

認定証自体は既に発送済でしたが、細胞検査士資格認定試験施行細則への追加がされていなかったためへ追加いただく。

4. 福島県立医科大学 保健科学部 臨床検査学科 細胞検査士養成課程 申請に対し許可可能か検討中
5. CT（IAC）資格更新継続に関する施行細則の変更の検討中

〔審議事項〕

1. 2021年度第54回細胞検査士資格認定試験二次試験 手技の実施について
細胞検査士委員会ではソーシャルディスタンスの確保、生体試料を貸し会議場で使用することは困難と考え、2020年度に続き2021年度も中止の方針。2022年度以降は実施可能か或いは筆記試験に盛り込んでいくか検討継続していく方針。⇒承認

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 羽場 礼次）

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

なし

教育委員会（委員長 生水 真紀夫）

〔報告事項〕

1. 細胞検査士教育セミナー
第79回細胞検査士教育セミナーを8月22日から9月5日に実施した。申込者1411名

で、受講者は1297名であった(暫定)。畿央システムでの受講料カード決済に不具合が発生したため、事務局がマニュアルで対応した。

第80回細胞検査士教育セミナーは受講料支払いとWebコンテンツ視聴を切り離して実施する事とし、10月19日～11月8日まで開催した。

2. 第81回細胞検査士ワークショップ

2021年2月27日(土)、28日(日)、熊本大学で開催予定

3. 第45回細胞診断学セミナー

8月24日から30日までWeb開催した。申し込み者87名のうち、視聴と確認試験で6割を越えた84名(本試験80名、追試験4名)を合格とし、修了証を発送した。

[審議事項]

1. 細胞検査士養成ワークショップ、細胞診断学セミナー開催について

顕微鏡実習有り、現地開催の方向で検討しているが、以下のような懸念あり。

感染防止のため、顕微鏡の台数が減少する、感染防止の諸費用が嵩む、参加者数が十分に確保できない可能性がある、直前のキャンセルなどのリスクがある、など収支のバランスが崩れる懸念がある。

⇒ 教育委員会で時間・人数・規模を必要最小限に厳選していただいたうえで、本件を顕微鏡実習有り・現地開催の方向で進めてもらうことを承認

渉外・広報委員会(委員長 小田 瑞恵)

[報告事項]

1. 会員へのメール配信等について

定期配信；日本臨床細胞学会誌がHPに掲載された際に、会員へ目次等の一斉メールを実施した。

- ① 国立研究開発法人国立がん研究センターより「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン更新版」が公開されたので、学会HP「お知らせ」に掲載した。
- ② 検査士委員会と検査士会の実施した「新型コロナウイルス感染の細胞診業務への影響に関する緊急アンケート調査」の活用について検討し、学会HP「お知らせ」に掲載した。
- ③ 第45回組織細胞化学講習会(Web開催)の開催の告知の依頼があり、学会HP「お知らせ」に掲載した。
- ④ 株式会社テクノミックより、本会HP上の「新型コロナ感染症(COVID-19)関連情報」のページを武田薬品工業株式会社の医療関係者会員専用コンテンツ内に公開したいので、当該ページへのリンクを希望したいとの依頼があり、理事長、情報処理委員会と協議のうえ承諾した。
- ⑤ 日本がん治療認定医機構より、2020年度 教育セミナー(Web配信)および認定医試験の案内の周知依頼があり、学会HP「お知らせ」に掲載した。

※ 青木 理事から①の掲載内容について要望（ガイドラインの名称の整合性、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」を文中に追加記載すること）があり、その要望に基づいて修正・掲載し直すことになった。

2. 他学会等との会議出席等について

- ① 一般財団法人 医療関連サービス振興会 令和2年度第2回 衛生検査所調査指導中央委員会への出席し、サービスマーク認定に係る審議等を行った。
- ② 一般財団法人 医療関連サービス振興会 令和2年度第2回 衛生検査所専門部会へ出席した。

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）

〔報告事項〕

1. 令和2年8月4日 18:00—19:00 令和2年度 第1回社会保険委員会 web会議開催。
2. 令和2年10月27日 18:00—19:00 令和2年度第2回社会保険委員会 web会議開催
3. 令和4年度診療報酬改訂への要望について、地域組織の支部長宛てに要望の収集ととりまとめを依頼し、その結果を検討した。
4. 婦人科細胞診に関係する項目については日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会へ共同提案を依頼した。
5. 12月10日の内保連への提案書の提出の準備を行う。

要望候補

感染症対策設備加算

細胞診の免疫染色への適応拡大

細胞診断料の婦人科細胞診への適応拡大

ROSEの適応拡大（甲状腺・乳腺・唾液腺などの穿刺吸引細胞診）

頸部細胞診陰性標本、判定支援加算（精度管理加算）

6. 次回診療報酬改訂にむけて要望の順位付けについて議論を行った。
7. 今後のスケジュール

2020年12月10日 内保連への第一次提案書提出締め切り

2021年4月 内保連によるヒアリングの実施

2021年4月22日： 提案書最終提出締切

2021年5月ごろ： 内保連ヒアリング

2021年6月： 最終提案書厚労省提出

〔審議事項〕

1. なし。

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）

〔報告事項〕

1. 2018年度、2019年度都道府県地域連絡組織・連合地域連携組織活動報告について
2. 地域連携組織に対する助成金による支援について

〔審議事項〕

1. 特に無し

国際交流委員会（委員長 榎本 隆之）

〔報告事項〕

1. 第28回日本-タイ細胞診ワークショップ（2020年度）の延期について
タイ側責任者の Chiang Mai 大学 Prof. Samreung と相談、2021年1月にチェンマイで予定されていた上記ワークショップを、今年度は中止し来年に延期、2022年1月に行う予定
2. 第19回日韓細胞診合同会議（2020年度）の延期について
2020/9/5 開催予定であったが延期、2021/9/4に予定（韓国にて、会場未定）

〔審議事項〕

第2回 JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ（2020年度）の延期について
JHU Prof. Syed Ali（米国側コースディレクター）は、米国側から3名の参加を調整してくださっているが、COVID対応について、入国時にPCR等の検疫に加え「14日間の待機」が必要（現状のままであれば）。現実的に開催困難と思われる

→ 常務理事会では「延期」を推奨

（関係予算は来年度へ繰り越し、時期は未定だが、2021年秋頃？）

→ JHU側は、日本側の判断に任せて下さる 希望は「face to face」の開催

⇒ 本理事会で「延期」を承認

（参考）国際会議延期一覧（すでに報告済みのものも含む）

会議名	会場	延期前日程	延期後日程
第2回 JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ	北里大学白金キャンパス 大村記念ホール	2021/3/27・28	2021年秋頃（未定）
Companion Meeting Japan in ECC 2020	ポーランド・ヴロツワフ	2020/10/4～7	2021/10/3～6
第19回日韓細胞診 合同会議	韓国	2020/9/5	2021/9/4

第 28 回日本-タイ細胞診ワークショップ	タイ・チェンマイ	2021/1/20～22	2022 年 1 月 (未定)
-----------------------	----------	--------------	-----------------

制度審議委員会（委員長 宮城 悦子）

〔報告事項〕

1. 2020 年 7 月 1 日より 14 日まで「日本臨床細胞学会誌投稿規定改訂案」についてのメール審議を行い、改定案が了承された。本改定案は常務理事会後に編集委員会にて修正が行われたため 2020 年 11 月 2 より 15 日まで制度審議委員会内で内容の確認を行った。
2. 2020 年 9 月 10 日より 18 日まで「細則集第 3 章 常務理事及び常務理事会」の改定についてのメール審議を行い、改定案が了承された（審議事項、資料に関連）。

〔審議事項〕

1. 「細則集第 3 章 常務理事及び常務理事会」内容について：常務理事会への招集は、実際には次期春期・秋期学術集會会長だけで無くその翌年の大会長も含まれており、現実に即した内容への変更が必要であるという事務局からの指摘がありました。制度審議委員会内での審議を行い、了承された資料に記載された内容に変更することで、広く春期・秋期学術集會会長予定者が含まれることになるため、理事会で審議をお願いします。
⇒ 承認
2. 「施行細則 委員会に関する施行細則」改訂について ⇒ 承認
3. 定款細則では細胞診専門医資格更新手続き期限が 12 月 10 日となっているが、この期限を「原則」12 月 10 日とし、期限については、随時、細胞診専門医委員会からの審議事項として処理することにより世情に合わせた運用を行う ⇒ 承認

医療安全委員会（委員長 藤井 多久磨）

〔報告事項〕

1. 医療安全セミナー開催予定（第 59 回日本臨床細胞学会秋期大会）
演題名：医療安全を鑑みた検査室管理—細胞診に関連した試薬の安全管理
演者：若狭 朋子 先生（近畿大学奈良病院）
日時：2020 年 11 月 21 日（土）13:30～14:30
2. 医療安全セミナー開催予定（第 62 回日本臨床細胞学会春期大会）
演題名：未定
演者：群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学教授・群馬大学医学部付属病院 医療の質・安全管理部 部長 小松康宏先生
日時：未定
3. MSC ホットラインの活動報告
今期、MSC ホットラインへの相談実績はなかった。

4. 医療事故調査機構の情報について

日本臨床細胞学会への調査要請は今のところない。

〔審議事項〕

1. なし

倫理委員会（委員長 竹島 信宏）

〔報告事項〕

第 59 回日本臨床細胞学会秋期大会において 2020/11/22(日)に医療倫理セミナーを開催の予定

講師 鬼島 宏 先生（弘前大学医学部病理生命科学講座）

題目 細胞診断学における医療倫理

〔審議事項〕

1. 日本臨床細胞学会の学会発表における倫理指針
日本臨床細胞学会では学会発表における倫理指針が現状では無いため、これを規定するのが望ましいと考える。倫理委員会内部でのメール会議を重ねた結果、委員会では以下の案を提示したい。
 - ① 『日本腹部救急医学会作成の学会発表における倫理指針（カテゴリー分類）』と『倫理委員会作成の人を対象とする医学系研究において倫理審査が不要な研究について』の2資料を採用する。この2資料を学会発表の演題登録の画面サイトに挿入し、『①倫理指針を確認しているかと②倫理審査を受けているかどうかの2つのボタンをサイトに設置する。』
 - ② この2資料をHPにも掲載し、学会発表と論文投稿に関して、今後はこの方向で行う事を周知する。
 - ③ これに関する部分の論文投稿規定を変更する（編集委員会）。

追加

1. 『腹部救急医学会作成の学会発表における倫理指針（カテゴリー分類）』のフローチャートは多くの学会でこれを採用している。
2. このフローチャートをHPなどに使用の場合は許可の申請が必要で、理事会で承認された後に腹部救急医学会に申請予定である。
3. 『人を対象とする医学系研究において倫理審査が不要な研究について』は倫理委員会作成であるが、HPなどに掲載する場合は、「本指針は、一般社団法人日本腹部救急医学会、一般社団法人日本消化器外科学会並びに一般社団法人日本消化器関連学会機構（JDDW）の指針を参考にして作成されたものである」などの記載が必要かと思われる。

4. 症例報告 7 例以下が倫理審査免除になっているのは、統計的な解析にはこれ以上の症例数が必要であるという理由であるが、多くの学会でこれを採用している。
5. 学会発表、論文投稿に関する他学会の動向を参考資料として提示した。各学会の学術集会ホームページ、投稿規定より確認した。

審議結果

上記の方向性を承認。なお、上記の方向性で実際に運用を進めていくにあたって、上記の追加 1 など他学会の動向に引き続き注意して進めていく。上記の追加 4 のような状況で患者への同意取得手続きも省略するのには慎重な意見があった。

青木理事より、日本医学会連合がこの件で提言(案)を発しており、2019年10月に本会を含む分科会に意見を求めてきている。提言(案)内容について確認してほしい。

利益相反委員会 (委員長 板持 広明)

[報告事項]

1. 利益相反自己申告書を対象者 115 名に送付・回収した。

[審議事項]

1. 組織 COI 開示について。
⇒ 本学会として組織 COI を把握しておく方針が承認された。
⇒ 開示請求が来た場合、利益相反委員会と理事長で協議して、開示すべきところには開示していく方針が承認された。

臨床試験審査委員会 (委員長 田畑 務)

[報告事項]

1. 特にありません。

[審議事項]

1. 特にありません。

IAC 連絡委員会 (委員長 青木 大輔)

[報告事項]

1. 第 43 回欧州細胞学会 ECC2021 は 2021 年 10 月 3 日から 6 日にポーランドのヴロツワフで開催予定。(10 月 5 日 CT (IAC) 試験、Cytopathologist 試験)
2. 第 21 回国際細胞学会 ICC2022 が 2022 年 11 月 14 日から 19 日まで米国メリーランド州ボルチモアにて予定されている。the 70th Annual Scientific Meeting of the

American Society of Cytopathology と同時開催。

3. 第 22 回国際細胞学会 ICC2025 は 2025 年 5 月にイタリアのフィレンツェで開催される予定。

〔審議事項〕

特になし

臨床試験ワーキンググループ (委員長 進 伸幸)

〔報告事項〕

1. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』
 - ・ 研究の進捗状況について

〔審議事項〕

特になし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ (委員長 森井 英一)

〔報告事項〕

1. 会議を行い、実証実験の計画を立て、全体の進捗状況の確認を 1 ヶ月に 1 回行っている。
2. メンバー施設において実証実験を行っているところである。細胞株が必要な施設には配布した。
3. 成果物とする時のフォーマットを定め、成果の出たものから報告してもらうこととした。
4. 成果物やワーキンググループ運営の担当を決めて、各々の担当のもとで小グループを構成し頻回に Web 会議を開催することで進捗を確認することとした。

〔審議事項〕

1. 委員 (田中良太先生) の追加 ⇒ 承認

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ

(委員長 佐藤 之俊)

〔報告事項〕

1. 各委員間で精度管理に関係する実験の備品購入を研究費から支出した。
2. ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループと協力して細胞検体取扱規定作成を進めており、その一部を近々ホームページに公開する予定である。

〔審議事項〕

1. なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

〔報告事項〕

1. 新たな4段階の呼吸器細胞診判定基準を提案し、それに基づく診断の検討結果が Acta Cytologica に publish された (Acta Cytol 64(5): 452-462)。
2. 呼吸器細胞診における国際基準作成作業を International Academy of Cytology (IAC) と International Agency for Research on Cancer (IARC) に協力して進めている。

〔審議事項〕

1. なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也）

〔報告事項〕

1. 9月9日に全施設の倫理審査が完了し、多施設共同研究を開始した。現在、各施設のデータを解析中である。

〔審議事項〕

1. なし

細胞診専門医教育研修指導要綱改訂ワーキンググループ（委員長 安田 政実）

〔報告事項〕

1. 令和2年9月19日（土）第4回細胞診専門医教育研修指導要綱改定ワーキンググループ会議を行った。

〔審議事項〕

1. 要綱（案）が完成しましたので、理事会での審議をお願いしたく提出いたしました。
⇒ 要綱（案）を承認。

理事候補選挙管理委員会（委員長 川本 雅司）

〔報告事項〕

1. 全国区理事選挙開票結果
次期評議員候補者数 453名
(10月16日締め切り)

到着投票用紙数 412 枚（投票率 90.9%） 前回投票率 95.3% 無効投票用紙 13 枚

〔審議事項〕

全国区理事候補者、次点者、今後の選挙スケジュール、地方区選出理事数、地方区定員が提示され、いずれも承認された。

その他の審議事項

1. 会員資格復帰希望者について

春期大会・理事会にて会費滞納により退会処分されたが、復会願いを提出してきた方々 10 名の復会が承認された。

2. 2023 年度（第 62 回）秋期大会長選出について

横山正俊 理事が選出された。

※学術集会長候補者の選出メンバーは以下のとおりであり、選出作業は本理事会開催前に前もって行われた。

理事長 佐藤之俊

前理事長 青木大輔

副理事長 川本雅司、齋藤豪、中村直哉、森谷卓也

学術委員会委員長 前田一郎

（役員等選任に関する施行細則第 2 条より）

3. 日本学術会議の協力学術研究団体に本学会が申請することについて ⇒ 承認

4. 学術集会における各種委員会の開催規定・申し合わせについて学術委員会で COVID-19 時代に対応した内容へ改良していくことについて ⇒ 承認

5. 選挙の電子化について

総務委員会、情報処理委員会を中心に予算、安全性、信頼性を要点として議論を開始していく方向性が承認された。

以上で本理事会の議題が終了し、川本雅司 副理事長の閉会挨拶をもって本理事会を終了した。

2021 年 3 月 6 日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊 

監事 長村 義之 

監事 佐々木 寛 

監事 土屋 眞一 